

りゅうおう

議会だより

No.193

2020年11月1日
滋賀県竜王町議会

熱意が

キラリ



撮影：写真クラブ竜王

関連記事P18



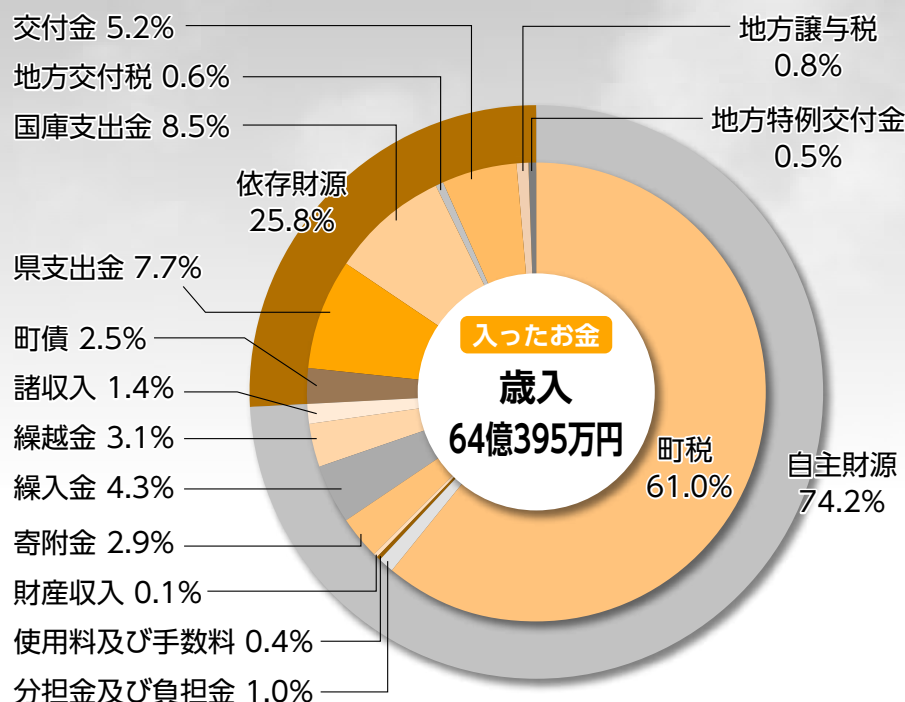
- | | | |
|-------|-----|--------------|
| 定例会報告 | P2～ | 令和元年度決算 |
| 委員会報告 | P5～ | 認定こども園への移行検討 |
| 一般質問 | P8～ | 今後の財政状況は |
| 追 跡 | P17 | 河川愛護の対応は |
| シリーズ | P18 | 私たちONE TEAM |

9月
定例会

令和2年第3回定例会は、9月1日から25日までの25日間の会期で開かれました。今回の定例会では、条例関係2件、補正予算7件、令和元年度決算認定8件、人事案件4件、その他5件の合計26案件を審議しました。慎重審議の結果、全て原案通り「可決・認定・同意」しました。

令和元年度一般会計決算

認定

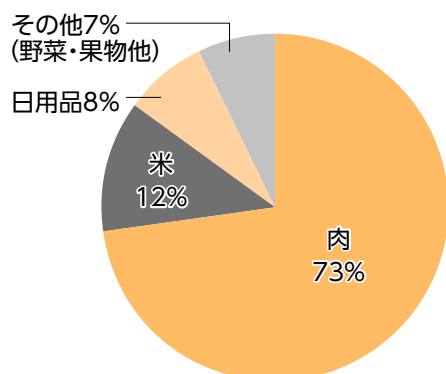


ふるさと納税が前年度比約1.5倍

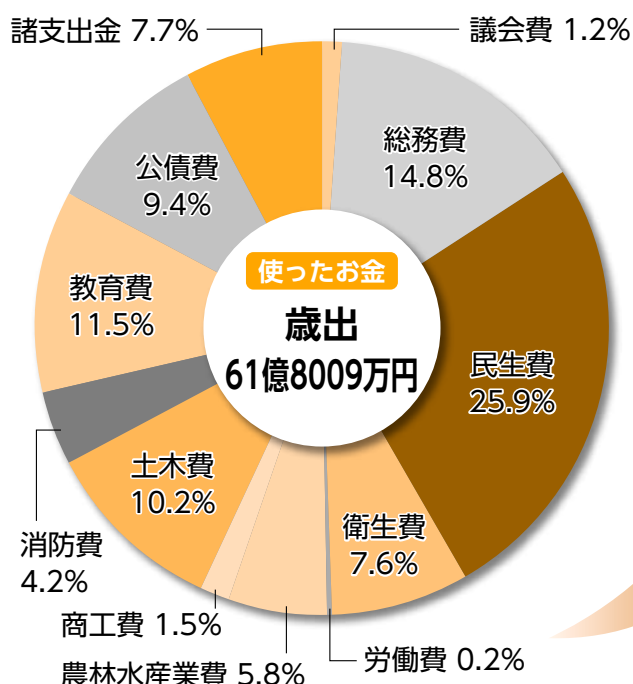
ふるさと納税の寄附額

1億8474万円

■返礼品別寄附額の割合



※グラフの集計期間は2019年1月～12月



UP!



青年団定期大会の様子

決算審査の主な質疑応答

問 危険なブロック塀撤去の補助申請が1件のみの理由は。

答 今年度は申請件数は増えている。今後は周知・広報について考えていきたい。

問 勤労福祉会館について青年団が利用しているが、今後は。

答 令和3年度末までに新たな拠点を探すと聞いている。

問 町道用地の除草について考えは。

答 町で管理作業員2名を配置し対応しているが、現実的に町が全て対応するのは難しく地域の協力を得て対応せざるを得ないが整理も必要と考える。

問 国民健康保険税の滞納状況と対応は。

答 国保税滞納者は134世帯、差押は全体で7件あった。文書で納付を促し臨戸訪問もしていく。

問 農村下水道使用料徴収誤りによる未収金を今後どうするか。

答 事業所等に伺い納付をお願いしていく。

令和元年度の主な事業

・魅力ある農業の創生事業

479万円

農産物ブランド化支援などに取り組んだ農業者に対し報奨金を支払いました。

・竜王近江牛等特産品発信事業

1994万円

「スキヤキ」というキーワードで町内の特産品や歴史・文化などを総結集させ、生産者・企業・関係組織・行政が連携して地域資源のPRに取り組みました。

・若者定住のための住まい助成事業および定住化促進事業

1092万円

住宅新築・リフォーム・家賃に対する助成など定住促進に取り組みました。

・公共交通対策関連事業

3006万円

路線バスについて業務委託や助成の他、利用促進として通学定期代の半額補助、夜間特別便の運行を行いました。また新たな移動手段の導入に向けた交通計画を策定しました。

監査委員の審査結果と意見(要旨)

決算内容については相対的に大きな不用額のある項目が見られたが、ほぼ適正に運営されているものと見受けました。町税や国民健康保険税等の滞納が依然として多い状況にあります。収納率の向上を図られるよう期待します。

事務面では、起案・決裁・施行の日付の整合性が取れていない案件などもあります。

行財政改革ならびに業務の効率化を図られ、住民福祉の向上に努められることを期待します。

9月補正予算

新型コロナウイルス感染症関連予算

・ 飲食店応援事業補助金	500万円
・ 修学旅行中止に伴うキャンセル料補助金	50万円
・ インフルエンザ予防接種助成事業	1064万円
・ 新生児特別定額給付金事業	706万円
・ 魅力ある農業の創生推進報償費	380万円

補正予算の主な質疑応答

問 修学旅行のキャンセル料補助金について執行するから分らない予算を上程する理由は。

答 修学旅行は何とか実施したいと考え、ぎりぎりまで判断を待ちたい。ただし直前の中止で、キャンセル料が発生する可能性もあるため上程した。

問 河川愛護活動の作業負担を大型機械で減らせるなら集落で導入すべきと考えるがどうか。

答 本町には天井川があることを訴えて県予算も拡充された。手作業には限界もあり、機械化を進めていきたい。

問 公民館の吊り天井の改修工事はどのようなものか。

答 国の耐震基準が見直されたことによるもの。緊急防災減災事業債を活用する。改修後の天井の重さは1㎡あたり20kgから2kgに軽量化される。

その他の補正予算

・ 河川愛護作業補助金	332万円
・ 議会本会議音声配信整備業務（有線放送廃止に伴う）	125万円
・ 公民館改修工事	2429万円

再任に同意



とちきえいし
榎本栄司副町長

就任の挨拶の中で榎木氏は、「掲げられた政策の確かな実現」と「イクボスとなり職員を育成」という言葉を述べられました。先の町長選挙で西田町長が掲げられた政策が実現に向かうサポートと政策の実務を担う職員の方々の育成をしっかりお願いし、より良い竜王町となるようこれからの4年間を歩んでいただきたいと思います。

任期は令和6年9月30日まで

総務産業建設常任委員会



国道8号整備促進の状況(7月27日)

バイパスの整備状況と取組は？

- 長浜～東近江の区間 (29.3km)
⇒彦根市～近江八幡市老蘇の森付近のルートが決定
- 野洲～栗東の区間 (4.7km)
⇒ 4車線のバイパス事業を実施中
- 東近江～野洲の区間 (約20km)
⇒近江八幡市老蘇の森付近～野洲市小篠原は整備を要望



主な質疑応答

問 町として今後どのような取組をすべきと考えるか。

答 今後も整備に向けて行動していくが、各地域の議員や企業なども役割分担しながら力を合せて進めていただく必要があると考える。



コロナ禍での町内産業の状況および近隣市町との支援策の比較(9月9日)

1. 竜王町の景況は？

国と町の持続化給付金の申請件数

- ・ 国 (売上額が前年同月比50%以上減少) ⇒69件(5月～8月)
※竜王町商工会を通じて申請された件数
- ・ 町 (売上額が前年同月比30～49%減少し、かつ同月比10万円以上減少) ⇒7件(9/3現在)

農業の状況

- ・ 野菜/麦/大豆…調査時点で大きな影響はないとの報告
- ・ 花き…市場価格が前年比60%下落(6月)、現在40%下落
- ・ 肉用牛…枝肉価格が前年比45%下落(4月)、現在20%下落
- ・ 果樹…売上が観光果樹60%減、直売所40%増

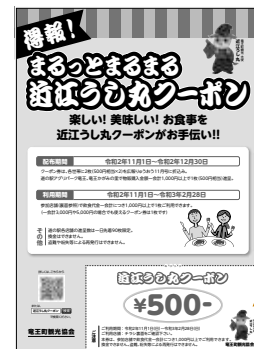
2. 近隣市町との支援策の比較は？

感染拡大防止臨時支援金や利子補給、プレミアム商品券、その他の施策において比較を行ったが、本町は他市町と同等かそれ以上の手厚い支援であった。また本町独自施策も含め、早期に支援策を打ち出したことが分かった。

主な質疑応答

問 飲食業の売上はどのくらい減少しているか。

答 減少率はそれぞれ異なるが、夜の宴会がないため昼のランチやテイクアウトで工夫されている。売上は半減以下になっていると想定する。



町内飲食店で使えるクーポン
(9月定例会で予算化 飲食店応援事業)

教育民生常任委員会



認定こども園への移行検討の状況(9月9日)

1. 認定こども園への移行検討に至るまでの経過

高まる保育ニーズへの対応

令和元年10月から幼児教育・保育の無償化が開始され、保育所利用希望者が急増し、幼稚園の入園希望者が大きく減少した。子育て世代のニーズに対応するため、公立幼稚園から認定こども園への移行検討を加速する必要がある。

2. 公立の就学前教育・保育施設のあり様

- ・認定こども園への移行で、待機児童を出さなく、教育と保育の充実を図ることができる。
- ・幼稚園教育を継続しながら保育園との共存共栄を図るため「幼稚園型認定こども園」を検討。
- ・幼稚園2園をそれぞれ認定こども園にする案、または1園にする案について説明を受ける。
- ・コンパクトシティ化構想の「交流・文教ゾーン」内での認定こども園の建設については今後、方向性をまとめる。

認定こども園移行に向けた整備スケジュール(案)

令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)
認定こども園移行計画	認定こども園移行	開園		新認定こども園建設基本計画 計画→設計→建築確認			着工→完成	開園

主な質疑応答

問 子どもの数が減少する中で保育園と子どもの取り扱いにならないか。

答 計画している認定こども園は3～5歳児を対象に教育と保育の一体化を考えており、保育園は0～2歳児も対象とされていることから保護者のニーズに合わせて選択できると考える。

問 認定こども園の検討状況を初めて聞いたが、今後、この方向で進めるといふことか。

答 認定こども園への移行を進めていきたい。



竜王小学校・竜王西小学校の施設状況(9月9日)

竜王小学校の状況

- ・昭和46年新築(築49年)
- ・教育施設としての設計が古い
- ・機能的空間である多目的スペースがない
- ・敷地内駐車場が不足
- ・昇降口が複数あるため防犯等の監視が難しい

竜王西小学校の状況

- ・昭和63年新築(築32年)
- ・運動場の大きさは県下最大級
- ・排水機能に優れており利用性が高い
- ・地盤沈下による弊害が散見される
- ・今後、長寿命化改修が必要となってくる



小学校の建物の状況視察

地域活性化特別委員会



中心核整備「交流・文教ゾーン」の進捗(9月10日)

1. 綾戸区民説明会の開催



綾戸区民説明会での事業説明(7/18・7/19開催)
参加人数 延べ59名

主な質疑応答

問 地権者の同意があればいいのか。自治会の同意も必要なのか。

答 大規模な整備であり、綾戸周辺の生活環境にも大きく影響するため、自治会と協議もしながら進めている。

問 綾戸自治会として反対ではないということか。

答 事業については前へ進めてもいいという答えをいただいている。

2. 綾戸区民説明会後の経過

8/6 庁内のプロジェクト合同会議において進捗状況の確認と情報共有。

8/12 綾戸地区から町へ「居住ゾーン」の計画についての具体的な説明を求める依頼書が提出される。

8/29 綾戸地区へ「居住ゾーン」について「交流・文教ゾーン」に引き続き検討を開始すると回答。

3. 今年度の予定(9月11日以降)

- ・対象地権者への協力依頼
- ・地元調整が整い次第、現地測量調査の実施



企業誘致の進捗(9月10日)

滋賀竜王工業団地の進捗状況



令和元年12月の報告では7区画中4区画が分譲済みだったが、令和2年9月現在、7区画中5区画が分譲済みである。

主な質疑応答

問 未分譲地である1号地と5号地の進捗は。

答 問い合わせはあるが、希望される面積と合わなかったり、製造業でなかったりする。県・公社と協力しながらできるだけ早期に優良企業を誘致したい。

町政 ここを問う!

9月定例会では11議員が
20問の一般質問を行いました。

ページ	質問者	質問事項
9	森島芳男議員	老朽化する自治会館建替えの補助金制度を
	磯部俊男議員	高齢者の移動支援は
10	岡山富男議員	町内の車両感应式信号機に「感知中」の表示を
		竜王小学校跡地の有効利用は
		国道477号西川西交差点に右折矢印信号機の設置を※
11	大前セツ子議員	遊休農地（畑）の活用は
		ドライブレコーダーの購入支援は
12	貴多正幸議員	今後の財政状況は
	尾川幸左衛門議員	弓削地区の雨水対策は
13	鎌田勝治議員	公共交通の整備は
		行政改革（外部委託の推進）は
14	福田優三議員	不登校児童・生徒への対応は
	澤田満夫議員	ほ場整備事業の維持管理は
15	橘せつ子議員	竜王町コンパクトシティ化構想は
		竜王小学校の整備は
		介護報酬の臨時的な取扱いによる利用料の引き上げは※
		子どものインフルエンザ予防接種への補助は※
		地域交通としての乗合タクシー実証運行は※
16	中村匡希議員	危険な空き家等への対応は
		社会人採用の経験年数加算は

※紙面の都合上、掲載しておりません。

一般質問って？

町の行政全般について
議員が町長をはじめとして
担当部局に疑問点を質したり、
見解などを尋ねたりするもので、
毎定例会で行われるよ



近江うし丸



森島 芳男 議員

問 老朽化する自治会館建替えの補助金制度を

答 補助制度の創設について研究する



老朽化する自治会館

問 町内の各自治会には建築から40年以上経過する自治会館が多くあるのではないかと。災害時の自主防災活動機能ならびに住民の世代間の交流の場として機能を果たすためにも、建替えが急務であると思われるが、建替え経費が高額であるため、各自治会で全額負担することは厳しい現状である。

答 自治会館については、地域活動の拠点であり、地域住民の連携を促進するために、大変重要な役割を果たしている施設であると認識している。

自治会館は、自治会の所有財産であるが、その公共性を踏まえて、まちづくり交付金等の交付対象として認めている。しかし、整備には多額の資金が必要であり、補助する仕組みの創設について、他の市町の事例や自治会の意見を参考に今後研究していく。

問 高齢者の移動支援は

答 予約制乗合ワゴン導入後、対応策を総合的に判断する



磯部 俊男 議員



ニーズが高まる電動アシスト自転車とシニアカー

問 電動アシスト自転車ならびにシニアカーは高齢化が進む中、移動手段の一助となっているが、これらの購入助成に対する町の考えは。

答 電動アシスト自転車、シニアカーの使用は、有効な移動手段の一つとなるが見込まれる。

しかし、高齢者は身体能力、認知機能および生活環境により、自身でできることや生活範囲が異なることから、安全に使用できるかといった課題もあり、支援制度の仕組みを検討する必要がある。また、これらの利活用において道路整備も重要な要素となり、適宜対応をしている状況である。

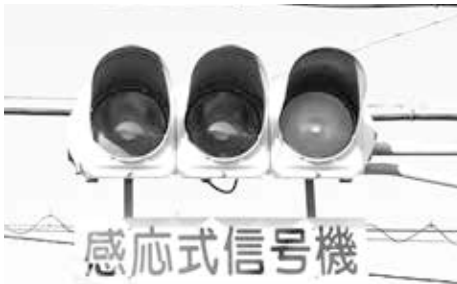
このことから高齢者の移動支援については、本年10月から実証実験が開始される予約制乗合ワゴンが対応策として機能するのではと考えており、導入後にどこまで高齢者の移動支援のニーズをカバーできているか分析、評価したうえで総合的に判断していく。

問 町内の車両感応式信号機に「感知中」の表示を

答 滋賀県公安委員会と協議を行う



岡山 富男 議員



車両感応式信号機

問 車両感応式信号機は一定の場所に停止すれば感知するようになっているが、センサーに感知されず、いつまでも停止している車があり、車両が感知されているかどうか運転手が分からないといった状況がよく見られる。

答 町内14か所の車両感応式信号機のうち「感知中」表示がある信号機が6か所、「感知灯」が点灯する信号機が2か所あり、残り6か所が表示なしである。車両が確実に感知位置に停止するように現地の状況を確認し、停止位置の明示を含め改善が必要な場合は県の公安委員会と協議を行う。

答 現時点では詳細な検討に至っていない。本町の大きな強みである農業や特産品、自然環境の魅力という地域資源を活用することは「居住ゾーン」も含めた中心核整備についても大切である。住宅地の確保は本町にとって重要政策であることから、地域と調和した竜王町らしい整備をコンパクトシティ化構想の中でしっかりと進めたいと考えている。

問 コンパクトシティ化構想では、竜王小学校・竜王幼稚園は新たな土地に移転するとされている。

当該跡地には住宅地を整備すると聞くが、魅力ある住宅地の整備構想を考えているのか伺う。

問 竜王小学校跡地の有効利用は

答 現時点では詳細検討をしていない



居住ゾーンが想定される地域



大前 セツ子 議員

問 遊休農地（畑）の活用は

答 「魅力ある農業の創生事業」で支援していく



町内の遊休農地（畑）

問 農業者の高齢化で遊休農地（畑）が増加する中、一方で定年退職後に農業を始められた方も増えてきた。このような中、農業振興の観点から増加する遊休農地（畑）の有効活用をどのように考えているか伺う。

答 令和元年度農地パトロールで確認された遊休農地のうち畑地は、14,790㎡で、全体の約3

分の1となっている。町の独自事業である「魅力ある農業の創生事業」の一環として、みらいパーク竜王では、栽培研修会を開催して栽培・出荷・販売までの指導を進めている。引き続き、みらいパーク竜王と連携して遊休農地（畑）を活用し町内産農産物の栽培指導と出荷拡大を進めていく。

問 ドライブレコーダーの購入支援は 答 総合的に判断していく

問 本年6月から妨害運転（あおり運転）に対する罰則が創設され、加えて7月から「自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律」が改正された。ドライブレコーダーを装着すれば事故原因の究明と、再発防止に役立つとして近年注目されている。そこでドライバーの安全安心のため、町民への購入支援について町の考えを伺う。

答 ドライブレコーダーの設置は事件や事故の抑制や解決に一定の効果があると考えられる。今後、設置費用にかかる公費負担は、普及状況や他市町の取組をみながら判断して考えていく。また妨害運転防止など交通安全の啓発にも努める。



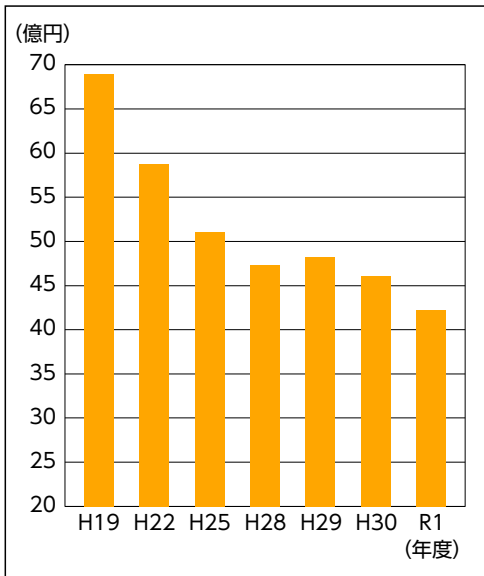
安心安全のために

問 今後の財政状況は

答 安定的な財政運営を維持する



貴多 正幸 議員



一般会計町債残高の推移

問 今後においてもこの状況が続くようであれば、歳出においては新型コロナウイルス感染症関連の対策費を見込む必要があり、歳入においては税収減を見込む必要があるため、財政調整基金を取崩す予算編成となることが考えられる。このような

答 今後においてもこの状況が続くようであれば、歳出においては新型コロナウイルス感染症関連の対策費を見込む必要があり、歳入においては税収減を見込む必要があるため、財政調整基金を取崩す予算編成となることが考えられる。このような

問 新型コロナウイルス感染症の拡大が今後もお続き、また、終息が見えない中、国内外における経済的・社会的影響は計り知れない。

答 そこで、今後の財政状況について伺う。

問 弓削地区の雨水対策は

答 下水道における雨水対策について研究する



尾川 幸左衛門 議員



早期の雨水対策が求められる

問 日野川は蛇行が激しく、祖父川は天井川であり、一級河川を管理する県に河川改修を要望しており、今後もこれを続ける必要がある。

答 一級河川の上流流域は町が雨水整備を行う必要がある。県の下水道指針では、10年確率雨量で整備することになっており、弓削地区は、この確率で0.1mの浸水が予想されている。これについて現況を調査し、課題ならびに対策を検討しているのか伺う。



鎌田 勝治 議員

問 公共交通の整備は

答 竜王町交通計画に基づき本格運用につなげる



予約制乗合ワゴン
チョイソコリゅうおう

問 本年10月より実施予定のデマンド交通の実証実験にあたり、次の3点を伺う。

①平成24年度に実施したデマンド交通社会実験の結果が今回の実証実験にどの様に活かされているのか等、具体的な改善点は。

②前回実験時の一番の課題と思われる地域の住民への周知方法は。

③竜王町交通計画は今後の様に活かされるのか。

答 ① 次の4点を改善した。事前の会員登録制にした。停留所数を増やした。ラッピングを施した車両を整備した。路線バスへのアクセスが便利になった。

② 令和2年10月1日から半年間は運賃を免除し、周知・利用を図りたい。併せて各地域の区長はもとより、老人会、民生委員・児童委員、福祉委員等に協力いただき、地域の行事等と連携していきたいと考えている。

③ 今回の実証運行の評価・検証を十分に行い、課題や改善点等を整理した上で、その内容を反映させた竜王町交通計画に改定し、改定後の本計画に基づき、本格運行につなげていきたい。

問 行政改革（外部委託の推進）は

答 本町らしい行政サービスの検討を行う

問 行政改革は事業運営に極めて重要な役割を果たす。そこで、限られたリソースを有効に活用し、業務効率の改善効果を期待できる外部委託について次の3点を伺う。

①住民課の窓口業務について民間委託の検討は。

②外部委託を検討する場合の手順は。

③第六次竜王町総合計画に行政改革に関する方針をどの様に示すのか。

答 ① 先進地視察を含め検討してきたが、費用対効果の面から、現状は難しいと判断している。先進市町の情報を収集し、引き続き検討する。

② 財政、人事や政策を



住民課の窓口業務の様子

担当している課を交えて多角的に検討を重ね、町幹部による議論に進め可否を決定する。

③ 行政改革は、確かな行政力として位置づけ、第六次竜王町総合計画に反映させる。

問 不登校児童・生徒への対応は

答 学習環境や体制の整備に努めていく



福田 優三 議員



① 答 ① 学校に登校して学習したり学校生活を送ったりすることを「出席」ととらえている。

② 県に問い合わせたところ、出席日数が選抜試験の判定に影響することはない。

問 新型コロナウイルスによる不安やストレスで学校生活に影響があり、本町の小中学校においても今後、不登校、別室登校の児童・生徒が増加する懸念がある。そこで次の3点について伺う。

① 出席日数の定義は。

② 出席日数による高校進学への影響は。

③ 不登校児童・生徒のケア、また対策は。



③ 保護者との懇談や家庭訪問の際に、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを交えて相談することなどで個々の子どもにあった支援の方向性を決めている。また「いじめ・別室対応支援員」を各学校1名ずつ、中学校には「心のオアシス相談員」を1名配置するとともに、小学校には「スクーリング・ケアサポーター」を1名ずつ派遣している。さらに、町のふれあい相談発達支援センターと連携を進め、支援を継続的に実施できるように取り組んでいる。

問 ほ場整備事業の維持管理は

答 適正な維持管理ができる体制整備を検討する



澤田 満夫 議員



(上) ひび割れた用水路
(下) 農道（砂利道）

① 答 ① 施設の機能劣化状況を把握するため、平成30年度から2年間で滋賀県土地改良事業団体連合会に機能診断等を依頼。結果は「用排水

問 土地改良施設の経年劣化が進んでいるが、将来の施設の維持管理について次の2点を伺う。

① 国営・県営の保全事業以外の末端の水路の老朽化について町の考えは。

② 基幹農道は舗装されているが、支線の舗装はどのように整備していくべきか。

路ともに老朽化は進んでいるが、全体を更新するまでには至っていない。現時点では農村まると保全事業などを活用した部分的対策が妥当」と報告された。中長期的対策は、竜王町農業のあり方検討懇話会などで協議いただき、維持修繕ができる体制整備が必要であると考えている。

② 農道舗装は、県56%、町65%の舗装率である。現在、国・県の補助事業があり、地域の要望には、当地の実情に合った補助制度を活用し整備を進めている。



橘 せつ子 議員

問 竜王町コンパクトシティ化構想は

答 着実に交流・文教ゾーンの整備を進める



交流・文教ゾーン
・小学校
・幼稚園（こども園）
・学童保育
・公園
・共用駐車場
・コミュニティセンター
・給食センター

① 答 本構想は町民ワークショップや懇話会、まちづ

問 コロナ禍では、分散型の持続可能な生活が地域で行えることが求められており、大型の公共事業への投資はできるだけ抑え、町民の命や暮らしを守るための施策に予算を使わなければならないが、次の2点について伺う。
① 竜王町コンパクトシティ化構想について問い直すべきであると考えますが町の考えは。
② 交流・文教ゾーンの整備に伴う中期財政計画は。

くり意見交換会の中で将来のまちの姿を取りまとめ、少子高齢化や人口減少への課題を解決するための対応策を示したもので、皆様のご理解はいただけたと考えている。改めて問い直す機会を設けることは考えていない。
② 投資額のピークは令和5年頃と見込んでいる。財源は国県補助金、基金の活用、町債の発行などで賄い、後年の償還金は企業誘致の収入の増加分などで事業実施は可能と見込んでいる。中期の財政見込を随時更新しながら、着実に整備を推進していく。

問 竜王小学校の整備は

答 令和元年7月に移転新築の方針を固めた

問 竜王小学校は現在の場所に建て替えるという選択肢もあるし竜王町コンパクトシティ化構想とは別に計画することも可能と考える。交流・文教ゾーンの整備全体では50億円とも言われているが、それで収まるのか町民の不安は大きい。そこで次の点について伺う。
① 竜王小学校を移転することはいつ頃決められたのか。
② 幼稚園、給食センター等も一か所に集める必要はあるのか。
③ 現在の場所に建て替え、必要な学童保育所の整備、駐車場の確保等に伴う予算はどの位になるのか。

① 答 平成31年2月に「竜王町教育施設の今後の

あり方検討委員会」の報告を受けて、本構想（案）のリーディングプロジェクトについて庁内協議を重ね、令和元年7月に移転新築の方針を固めた。
② 防災、コミュニティなどの機能を併せ持つ学校を中

と連携強化が期待できる。
③ 小学校建築費約30億円、仮校舎の費用約2億円、学童保育所約1億円、駐車場約1億円（350台分）、合計約34億円余りと考える。

心に、幼稚園、学校給食センターも集めることにより、既存の公民館、図書館などの連携が可能となり、駐車場の共用整備などによる施設間の有効活用



現在の竜王小学校

問 危険な空き家等への対応は

答 今年度から所有者への指導通知を行う



中村 匡希 議員



危険な空き家のイメージ

問 特定空家等について、対応を先延ばしにすると将来的な税負担も予想される。本町では平成30年度に「竜王町空家等対策協議会」が発足したが、昨年度の実績について次の3点を伺う。

① 空家等の現地調査または立ち入り調査件数は。

② 現在の「特定空家等」の件数は。今後どのような家屋を「特定空家等」に指定していくのか。

③ 解体が必要な家屋から優先的に課題解決にあたるべきと考えるが町の見解は。

答

① 特定空家認定を目的とした調査は対象として無かったが、自治会の相談を受け現地確認した件数が2件ある。

② 現在は0件である。空家等の物的状態判定・周辺建物や通行人等への悪影響・その危険等の切迫性により判断をしていく。

③ 「空家等」の危険度を10段階で評価している。今年度から危険度の高いものに重点を置き取り組んでいく。

答 本町特有の規則ではなく、県内の他市町でも同じで「均衡の原則」に基づいている。3分の2という取り扱いは人事院規則に準じたもので妥当と認識している。

社会人経験者についてはモチベーション高く職務を遂行してもらえよう、人事評価制度を活用して組織の活性化に努めていきたい。

問 竜王町の規則では、民間企業などからの転職者の経験年数は5年までは役場で5年勤務したものと扱われるが、5年以上については3分の2年という扱いで、民間のキャリアが長いほど相対的に不利な扱いになる。今後の人材登用にあたり、民間と同程度に評価する制度設計が必要ではないか。

問 社会人採用の経験年数加算は

答 人事評価制度で対応していく



人事評価制度の研修



あの質問は その後、どうなった??



議員の質問に、町がその後どのように対応したかを追跡・検証してみました。

河川愛護と活動委託の対応は

令和元年6月定例会および

令和2年3月定例会 一般質問より



重機を使用した作業風景

機械化により作業負担が軽減され、町の予算も5年前から約1.5倍となる。

その後

県も課題を認識されており、支援内容を見直し検討されている。県と情報共有しながら進める。

問 河川愛護活動で各自治会に支払う活動費用を町が活用して業者に作業委託できないか。

答 継続した取組を行うためには作業負担の軽減や安全確保に努め、大型除草機等の使用を検討していく。

問 各自治会で行われる河川愛護活動は、高齢化に伴い重労働となってきた。誰もが大怪我や事故にあり可能性があり対策を打つべきではないか。

次回の一般質問は 令和2年12月18日(金)の予定です

令和2年第3回定例会に引続き、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、傍聴をご遠慮いただく場合があります。

傍聴案内については事前に町ホームページでご確認ください。

なお、本会議の様子は有線放送にて中継でお送りしています。受話器を上げて75番を押してご利用ください。チャンネル放送停止は70番です。

ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



☎ 議会事務局 電話 0748-58-3713

ぜひ一度！見学にお越しください

私たちは平成25年4月に公民館写真講座で活動を開始し、平成27年4月に「写真クラブ竜王」を立ち上げました。活動は公民館での月1回の月例会の他、四季を通じて日帰りの撮影会を行っています。昨年の5月にはアグリパーク竜王をお借りし、第1回写真展を開催させていただきました。短い期間ではありましたが、多数の方に見に来ていただき感謝しております。今年にはコロナ禍のために中止しましたが、毎年写真展を開催する予定です。

また、町内の祭やスポーツ行事などの機会も撮影会に取り入れており、撮影会を通じて町内の祭、風景に感動することもあります。

興味のある方は気軽に月例会（毎月第2金曜日）にお越しください。お待ちしております。



月例会の審査風景

表紙

生徒の熱意に感動

令和2年9月11日、ドラゴンハットで竜王中学校輝竜祭体育の部が開催されました。本年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、午前中のみ開催となりましたが、グラウンドを全力で駆ける生徒たちの姿はまぶしく、その真剣な眼差しや熱意に心を打たれました。

また感染予防の観点から、生徒会種目について、生徒たちが「密にならないように」「接触しないように」「短時間で終わるように」と考えたのが「玉入れ」。1人持てる玉は3個のみ、入らなかった玉を拾うのはだめ、また3個の内1個は色を変えて得点を2倍にするなどゲーム性を考慮したルールです。当日は投げる間隔を考えるなど工夫が見られました。



編集後記

稲の収穫も終わり、秋も深まりつつあります。新型コロナウイルス感染症は、これから季節性インフルエンザとの同時流行が懸念されることから一層予断を許さない状況です。

9月定例会では令和元年度決算と新型コロナウイルス対策を含む補正予算等の審議・採決等が行われ、高齢者や妊婦の方、子ども達へのインフルエンザ予防接種費用助成も可決しました。ご利用いただき、さらに感染予防に努めてくださいますようお願いいたします。

町民皆様により身近な議会、開かれた議会をめざして「議会だより」も一層の紙面充実に努めてまいります。

橋記

議会広報特別委員会

委員長	中村 匡希
副委員長	大前セツ子
委員	福田 優三
委員	橋 せつ子
委員	岡山 富男
委員	小西 久次